

第3期備前市子ども・子育て支援事業計画（案）に対する意見募集の結果公表について

第3期備前市子ども・子育て支援事業計画（案）に対し、市民の皆様からご意見を募集した結果について、ご意見の要旨とそれに対する市の考え方をとりまとめましたので、公表します。

ご意見をお寄せいただきまして、ありがとうございました。

募集期間 令和7年1月22日（水）～2月21日（金）

意見等 8件

No.	意見等の要旨	市の考え方
1	・子どもにあふれた備前市にしたいのなら、終了した家の関係の補助金を復活させるべきではないでしょうか。今の備前市は既存の市民より観光客優先で税金を投入しているように見受けられ、その結果若者がいなくなっていると思います。子育て世代、これから子を産むであろう若者が助かる補助金を増やせば魅力に感じて人が増えるのではないのでしょうか。	・計画案 P46 に「子育てにかかる経済的負担の軽減」として記載のとおり、様々な経済的支援を行っているところですが、ご指摘の新築補助金等についてのご意見は、今後の参考とさせていただきます。
2	・計画案 P29 の調査結果では、保護者も子どもも公園や施設、集団で外遊びができる場所を望む回答が最も多いのに、それに対応する具体的な施策、事業が一つもないのは問題ではないのでしょうか。	・計画案 P44 の「子どもの成長を支援する環境の充実」の項目で「インクルーシブ遊具の整備」についての記述を追加します。

3	・計画案 P29 で遊び場がほしいというニーズがありますが、小中学生が安心して過ごせる場所は、経験上、習い事や塾でした。市内に参加しやすい習い事のあるところと良いのではないかと思います。共働きが増え、送迎も大変なので、親の負担が少なく、様々な経験ができる場所があると良いのではないかと思います。	・計画案 P45 で「放課後児童クラブその他放課後の居場所づくりの推進」として、放課後子ども教室の実施や学校施設の活用などについて記載しています。また、備前まなび塾プラスでの体験活動などについても記載しています。
4	・健康びぜん 21 では栄養委員会や愛育委員会との連携にも言及されていますが、その活動との関係はないのでしょうか。 ・子どもの居場所活動などの実績も反映していくと良いのではないのでしょうか。継続していけるよう予算化も検討していると聞いているので、計画に記載してもらいたいと思います。若者が子育てしながら生活していく場所として喜んで選んでもらえる備前市にしていくよう、協力してくれる市民とともに計画してもらえたらと思います。	・栄養委員、愛育委員として具体的に名称の記載はありませんが、計画案 P47 に記載の「親子の心に視点を置いた支援」の項目において連携することとしています。 ・子どもの居場所については、計画案 P50 の「子どもの居場所づくりの推進」の項目において、子ども食堂や第三の居場所などの居場所づくりを NPO 法人、ボランティア団体等と連携して実施する旨を記載しています。
5	・未就学児が行うランバイクを練習できる場所がほしいです。まだ認知度が低いので、他の地域からも練習に来てくれるような環境を整えてほしいと思います。 ・旧アルファビゼンに子育て支援の施設ができるようですが、駐車場は近くにありますか。子どもを安心して連れて行けるような駐車場は必要だと思います。 ・一時保育の時間を一日に増やしてほしい。	・ランバイクについては、ご意見として今後の参考とさせていただきます。 ・学びと遊びの健康プラザ（旧アルファビゼン）では 1 階に「おもちゃ広場」として遊び場の整備が予定されており、地域子育て支援拠点事業などでの活用を検討しています。なお、駐車場は近隣での整備を予定しています。 ・一時保育については、認定こども園（伊部・日生・吉永）において 1 日の預かりに対応しています。

6	・計画案 P45 の「放課後児童クラブその他放課後の居場所づくりの推進」について、放課後児童クラブの実態調査・把握を担当課が行う必要があると思います（学校、地域によって閉所時間の差がありすぎる、障がいがある子への理解がない、入会を断るなど）。また、「必要な知識及び技能の修得を支援します」とありますが、それだけでは研修が足りていないのではないのでしょうか。具体的に研修内容を盛り込む必要があると感じます。 ・計画案 P49 の「障がいや困難を有する子どもへの施策の充実」について、「ことばの教室」では備前市では「言語」の教室しかなく、その他の困難を抱える児童は通うことができません。他の自治体のようにその他の発達障害を持つ児童が利用できるよう体制を整えてください。特に発達障害があったとしても「ASD」がなければ、本人と保護者が困難さを伝えても特別支援学級に入れてもらえないのが備前市の現状です。そのようなルールで線引きをするのであれば、支援を受けられない取りこぼされた子どもたちの受け皿として「言語」以外の困難さを抱える子どものための通級指導教室が必要です。 ・計画案 P49 の「長期欠席・不登校対策」について、「教育支援センター「あゆみ」で登校する意思があるにもかかわらず、登校できない児童生徒の学校への復帰を支援します。」とありますが、具体的にどのような支援をしているのか記載してください。また、「あゆみ」を利用している児童のみが対象に読み取れるのですが、利用	・放課後児童クラブについては、計画案 P31 の「放課後児童クラブと既存事業等との連携」の記載にもありますが、年 1 回ニーズ調査を実施の上、把握に努めており、ニーズに沿った各クラブでの対応の差については、スタッフ確保等の問題からやむを得ない事情もありますので、ご理解いただきますようお願いいたします。 研修については、市主催や県主催のもののほか、各クラブ独自での研修受講もしていますが、実際の課題に応じた研修の受講ができるよう努めていきます。 ・計画案 P49 について、学校教育においては、基本的には障がいのある児童生徒等も必要な配慮や支援により、可能な限り障がいのない児童生徒等とともに学習ができるように努めています。また、個々の実態や特性に応じて、通常学級や特別支援学級、通級指導教室といった多様で柔軟な学びの場が用意されています。特別支援学級や通級指導教室の入級や退級については、保護者と学校・園の連携のもと、一人ひとりの児童生徒の状況やニーズを確認した上で、一人ひとりの適切な学びの場について、国からの通知を基に市の教育支援委員会において判断しています。特別支援教育に係る相談については、まずは児童生徒の在籍校に連絡ください。備前市における通級指導教室のあり方については、ご意見として承り、通級指導教室も含め、様々な場における特別支援教育の充実に努めていきます。 ・教育支援センター「あゆみ」での具体的な支援については、児童生徒本人やその保護者の思いや願いをもとに個に応じた支援内容となる
---	---	--

していない児童に対してはどのようなアプローチをされているのでしょうか。特に「あゆみ」に通うためには長期欠席及び校長の許可がないと通えないと聞いています。それ以外の子どもたちへの対処、支援目標が必要だと思えます。また、「あゆみ」の不登校支援のゴールが「学校復帰」という考え方も時代に合っていないと感じます。文部科学省も岡山県教育庁も学校復帰を目標と明記していないはずです。備前市も時代に合った不登校支援に対する目標、施策を検討すべきだと強く感じています。 ・計画案P53の「ICT利用に関する教育」について、現状、学校、担任の先生に依存しており、ICT学習の格差が市内でとても大きいと感じる。具体的にどのようにICT教育を推進していくのか明記してください。 ・計画案P73の「児童育成支援拠点事業」について、こども第三の居場所登録者数を基に推計とありますが、市内の第三の居場所で不登校支援をされているところは聞いたことがないのですが、どのように算出されているのでしょうか。正確な数値は公開されていないので知りませんが、市内の中学校のほぼ1割が不登校又は不登校傾向があると聞いています。令和7年から11年まで「16人」だろうと予測した根拠を教えてください。全国では年々増加しているので、備前市でもそうだろうと思います。その中で市内の相談等を行う事業の量の見込みが変わらないという推計はとても安易に感じますが、再考は可能でしょうか。	ため、その内容は多岐にわたりますが、主に生活や学習の支援を中心に行っています。また、ケースによっては、児童生徒本人と学校とのつながりが途切れることのないような支援も行っています。教育支援センター「あゆみ」を利用していない児童生徒に対してのアプローチについては、必要に応じて教育委員会や関係機関との連携及び協力のもと、学校が主体となって行っています。こちらについても、児童生徒本人やその保護者の思いや願いを確認し、校内でケース会議等により学校としての取組の方向性を定め、個に応じた支援となるよう努めています。また、不登校対策についても、不断の見直しを行いつつ、改善を図っていくこととしています。 ・計画案P53の「ICT利用に関する教育」については、教員研修により教育ICTの利活用について学んだり、好事例を共有したりすることなどを通して、教員が研鑽を積み、児童生徒の学びに還元できるよう努めていきます。 ・計画案P73の「児童育成支援拠点事業」で記載の「こども第三の居場所」については、寒河地区で1箇所設置しており、不登校に限らず、児童福祉としての支援が必要な子どもが登録されています。現状、登録者数が16人ということで、これを基にしているものであり、また、上限などではありませんので、実態に応じた対応をとることとしています。
--	--

7	・備前ポイントについて、子育て期間にいただいたポイントは大変ありがたく、2人目の出産、育児もやっていけると後押ししてくれる存在です。家計の助けとなり、子どもと過ごす時間を多く持つことができます。しかし、子育ては子どもが小さいときだけではなく、小学校、中学校を見据えたとき、引っ越しを考える家庭も多いようです。小学生、中学生になっても補助的なものや魅力がないと厳しいのではないかと思います。 ・子育て広場について、わくわくの一むとプレーパークのおかげで2人の育児をすることができています。市内には子育て広場が多くあり、たくさんの方が利用されています。環境も良く、子育てするのに大切なことを教えてもらえるため、これからもすてきな場所を利用できたらと思います。 ・こども園と小学校、小学校と中学校の統一について、香登でこども園と小学校、伊部で小学校と中学校が同じ活動場所になると聞いたのですが、本当でしょうか。もしそうなら大反対です。子どもたちの体の大きさを考えて作られた園舎、校舎があるにも関わらず一つにする理由がわかりません。様々な通学方法の子どもたちがいることになりますが、安全面は大丈夫でしょうか。子ども同士のトラブルも増えると思います。活動時間が違うのでチャイムや特別教室の使用管理は誰がするのでしょうか。現場の先生頼りなら、小学校と中学校の先生たちが疲弊してしまいます。特別な時間割などで終業時間はいつも同じではありませんが、どのように考えています	・計画案 P46 の「子育てにかかる経済的負担の軽減」の項目において、給食費無償化をはじめ、小学生、中学生の間の支援も含めて経済的支援を記載しています。 ・子育て広場などについては、計画案 P41・42 の「情報提供・相談体制と親子が集える場の充実」の項目において、地域子育て支援拠点事業などについて記載しており、引き続き実施することとしています。 ・香登認定こども園と香登小学校、伊部小学校と備前中学校の一体化については、ご意見として今後の参考とさせていただきます。 ・部活動については、地域移行を進めており、市内の中学校全体で一緒に活動することも検討しています。地域移行の実施に向けては、生徒の移動手段も課題となっており、今後検討していくこととしています。 ・公園及び図書館についてのご意見は、今後の参考とさせていただきます。
---	---	---

	か。子どもがいるから先生がいて、校舎があります。同じにすることは子どもたちのためになるとは思いません。どうか子どもたちが過ごしやすい環境を継続してほしいです。 ・部活動について、中学校によっては部活動の数が違うと思いますが、放課後にバスを使って部活をできる場所まで移動して、人数を集めての活動は可能でしょうか。 ・公園について、伊部の公園の遊具が新しくなり、遊べる場所ができ、大変ありがたいです。遊んでいたとき近くにいた小学生が「ブランコがほしいな」とつぶやいていました。可能ならば設置を希望します。 ・図書館について、新しくなるので、より一層、本を借りることができると思うと今からワクワクした気持ちです。行事や季節の絵本などをまとめたブースづくりや大型絵本を個人でも借りることができるようになるとうれしいです。	
8	・子育て支援拠点であるわくわくる一むや備前プレーパークなどを頻繁に利用させてもらっており、ライフラインのような存在ですが、計画案 P22 の「子育て支援拠点施設の利用状況」のグラフでは半数以上が「現在利用していない・今後利用したくない」になっていて驚きました。大きな数字の中にいろいろな意味があるのではと感じます。もし子育て支援拠点よりこども園の需要があるのならば、そちらへのサポートも今より必要だということだと思います。	・子育て支援拠点施設の利用状況については、計画案 P42 の「特定教育・保育施設等の環境整備」で記載のとおり、保育料無償化や待機児童対策の重点的な取組により、現状では待機児童は解消していることから、就園率が高く、未就園児の人数自体が減少していることも影響していると考えられます。また、サポートとしては、計画案 P75 の「教育・保育の一体的な提供及び推進体制の確保」の項目において、保育教諭等に対する各種研修、講座の開催等を通じて教育・保育の質の向上を図ることとしています。

・旧アルファビゼンに整備予定の学びと遊びの健康プラザ（ビーテラス）について、子育てに関する中心地、健診やマザースクールの実施など、当初は期待を持って楽しみにしていましたが、中途半端なものになるのではないかと心配です。市外のママ友さんには、備前市にはすてきな子育て拠点があってうらやましいと言われたこともあります。それぞれの拠点や行政、市の保健師さん、こども園などが点ではなく、もっとつながってほしいと思います。 ・伊部小学校と備前中学校を一緒にする案があると伺いました。保護者、教職員など自分が話を聞く現場に近い方はみんな反対されています。当事者や現場が置いてけぼりになるような事業、政策は何のためかわかりません。それぞれつながりを持って意見交換など進めていただきたいです。	・学びと遊びの健康プラザ（ビーテラス）については、1階に「おもちゃ広場」として遊び場の整備が予定されており、地域子育て支援拠点事業などでの活用を検討しており、子育て支援団体なども含めて連携を深めていきたいと考えています。 ・伊部小学校と備前中学校の一体化については、ご意見として今後の参考とさせていただきます。
---	---